

## 第2回協議会でのアンケートに関する意見について

### 1 就学前児童保護者調査の「問8 子育てに関する悩みや気になること」

○「子どものしつけや教育」（38.0％）を回答した保護者の「子どもの病気や発育・発達」等他の悩みとの関係について

●問8は複数回答であり、「子どものしつけや教育」の回答者で他の項目を選択した件数は次表のとおりですが、「子どもの病気や発育・発達」、「子どもの食事や栄養」、「子どもの育児の方法」がそれぞれ4割を超えて多くなっています。

順番	子どものしつけや教育	202	100.0%
1	子どもの病気や発育・発達	86	42.6%
2	子どもの食事や栄養	84	41.6%
3	子どもの育児の方法	82	40.6%
4	子どもを過度に叱り過ぎている気がする	45	22.3%
5	子どもと接するときに頻繁にイライラすることがある	43	21.3%
6	仕事や自分のしたいことができない	39	19.3%
7	友だちづきあい（いじめ等）	32	15.8%
8	子どもとの時間が十分にとれない	32	15.8%
9	ストレスが解消できない	26	12.9%
10	睡眠時間が十分にとれない	24	11.9%
11	子どもの接し方に自信が持てない	20	9.9%
11	配偶者以外子育ての協力者がいない	20	9.9%
13	子育てで配偶者等と意見が合わない・協力が少ない	17	8.4%
14	自分の体調管理が十分にできない	12	5.9%
15	登園拒否等の問題	9	4.5%
16	子育てについてのまわりの見る目	7	3.5%
17	子どもに手をあげる等をしてしまう	5	2.5%
18	サービスの利用方法等がわからない	5	2.5%
19	その他	4	2.0%

## 2 加重平均

○加重平均という手法は何が明らかになるのかについて

- 加重平均の意味は、選択肢にそれぞれ重みづけ（点数化）をして平均値を出すことにより、20項目の中での子どもの思いや気持ちの重みが可視化しやすいことと、学年別等クロス集計での比較がしやすくなります。

- 「問11 学校での生活は楽しいかどうか」とのクロスは次表のとおりですが、概ね肯定的、積極的な思いや気持ちは「とても楽しい」が最も高く、否定的、消極的な思いや気持ちは「楽しくない」や「答えたくない」が高くなっています。

特に相関が強い項目は、【⑦私は、だれかが心を痛めていたり、落ち込んでいたり、嫌な思いをしているときなど、進んで助ける】や、【⑬私は、ほかの子どもから、いじめられたり、からかわれたりする】、【⑮私は、親からほめられることが多い】、【⑲私は、自分の好きなところがある】で、概ね相関関係が見られる項目は、【⑥私は、心配ごとが多く、いつも不安だ】と【⑰私は、親とよく会話をする】となっています。

子どもの思いや気持ち	とても楽しい (n=803)	どちらかといえ ば楽しい (n=522)	あまり楽しい とは思わない (n=108)	楽しくない (n=22)	答えたくない (n=36)
①私は、他人に対して親切にしている	3.69	3.44	3.19	3.20	3.29
②私は、他人の気持ちをよく考える	3.54	3.33	3.07	2.85	2.97
③私は、よく頭やお腹が痛くなったり、気持ちが悪くなったりする	1.94	2.28	2.54	3.14	2.51
④私は、ほかの子どもたちと、物をよく分け合う	2.95	2.80	2.71	2.50	2.74
⑤私は、大抵一人でいる。大体いつも一人で遊ぶか、人と付き合うことを避ける	1.32	1.59	2.03	2.60	2.09
⑥私は、心配ごとが多く、いつも不安だ	1.65	2.12	2.45	2.45	2.54
⑦私は、だれかが心を痛めていたり、落ち込んでいたり、嫌な思いをしているときなど、進んで助ける	3.34	3.07	2.96	2.76	2.66
⑧私は、仲の良い友だちが少なくとも一人はいる	3.73	3.63	3.36	3.70	3.26
⑨私は、落ち込んで沈んでいたり、涙ぐんだりすることがよくある	1.80	2.23	2.47	2.50	2.40
⑩私は、同じくらいの年齢の子どもからは、大体は好かれている	3.05	2.73	2.31	2.63	2.49
⑪私は、新しい場面に直面すると不安になり、自信をなくしやすい	2.24	2.60	2.76	2.81	2.74
⑫私は、年下の子どもたちに対して優しくしている	3.67	3.44	3.30	3.32	3.11
⑬私は、ほかの子どもから、いじめられたり、からかわれたりする	1.30	1.46	1.65	1.86	2.00
⑭私は、親や先生、子どもたちのために、自分から進んでよくお手伝いをする	2.93	2.64	2.48	2.68	2.40
⑮私は、ほかの子どもたちより、大人というほうがうまくいく	2.08	2.20	2.48	2.25	2.49
⑯私は、こわがりで、すぐにおびえたりする	2.01	2.15	2.40	2.50	2.29
⑰私は、親とよく会話をする	3.64	3.36	3.17	2.90	2.91
⑱私は、親からほめられることが多い	3.18	2.84	2.65	2.48	2.40
⑲私は、自分の好きなところがある	3.33	2.83	2.42	2.35	2.31
⑳私は、夢や目標がある	3.54	3.24	3.30	2.70	3.00

- 小学生の間25、中学生の間27「今の生活の満足度」とのクロスは次表のとおりですが、概ね肯定的、積極的な思いや気持ちは「とても満足している」が最も高く、否定的、消極的な思いや気持ちは「あまり満足していない」や「まったく満足していない」が高くなっています。

特に相関が強い項目は、【⑤私は、大抵一人でいる。大体いつも一人で遊ぶか、人と付き合うことを避ける】や、【⑩私は、同じくらいの年齢の子どもからは、大体は好かれている】、【⑮私は、ほかの子どもたちより、大人というほうがうまくいく】で、概ね相関関係が見られる項目は、【③私は、よく頭やお腹が痛くなったり、気持ちが悪くなったりする】となっています。

子どもの思いや気持ち	とても満足している (n=764)	どちらかといえば満足 (n=507)	どちらともいえない (n=155)	あまり満足していない (n=45)	まったく満足していない (n=13)
①私は、他人に対して親切にしている	3.65	3.48	3.32	3.41	3.69
②私は、他人の気持ちをよく考える	3.52	3.32	3.19	3.23	3.15
③私は、よく頭やお腹が痛くなったり、気持ちが悪くなったりする	1.89	2.28	2.61	2.61	3.00
④私は、ほかの子どもたちと、物をよく分け合う	2.93	2.80	2.80	2.77	2.92
⑤私は、大抵一人でいる。大体いつも一人で遊ぶか、人と付き合うことを避ける	1.32	1.64	1.76	2.00	2.31
⑥私は、心配ごとが多く、いつも不安だ	1.59	2.12	2.48	2.63	2.54
⑦私は、だれかが心を痛めていたり、落ち込んでいたり、嫌な思いをしているときなど、進んで助ける	3.34	3.10	2.89	2.93	2.77
⑧私は、仲の良い友だちが少なくとも一人はいる	3.70	3.63	3.57	3.39	4.00
⑨私は、落ち込んで沈んでいたり、涙ぐんだりすることがよくある	1.75	2.20	2.52	2.72	2.54
⑩私は、同じくらいの年齢の子どもからは、大体は好かれている	3.04	2.74	2.57	2.49	2.33
⑪私は、新しい場面に直面すると不安になり、自信をなくしやすい	2.15	2.62	2.90	3.02	2.77
⑫私は、年下の子どもたちに対して優しくしている	3.66	3.47	3.32	3.18	3.46
⑬私は、ほかの子どもから、いじめられたり、からかわれたりする	1.25	1.49	1.68	2.09	1.46
⑭私は、親や先生、子どもたちのために、自分から進んでよくお手伝いをする	2.95	2.64	2.46	2.45	3.00
⑮私は、ほかの子どもたちより、大人というほうがうまくいく	2.10	2.20	2.21	2.50	2.58
⑯私は、こわがりで、すぐにおびえたりする	1.92	2.24	2.41	2.28	2.54
⑰私は、親とよく会話をする	3.70	3.39	2.87	2.95	2.85
⑱私は、親からほめられることが多い	3.28	2.82	2.38	2.43	2.15
⑲私は、自分の好きなところがある	3.40	2.86	2.20	2.40	2.25
⑳私は、夢や目標がある	3.63	3.21	2.99	3.00	3.00

### 3 子ども向け生活実態調査の「問8 ヤングケアラー」について

○ヤングケアラーに「あてはまる」と回答した子どもの家族構成や手伝いの内容について

- 小学生49人の家族類型、本人以外の同居家族、家の手伝いの内容は次表のとおりで、ひとり親が4人となっています。

家族類型	本人以外の同居家族等	家の手伝いの内容
ひとり親と子	母、弟・妹	その他（布団用意）
	母、兄・姉、弟・妹	買物
	母、本人、兄・姉、弟・妹	食事の後片付けや食器洗い、ごみ出し、買物、 <u>祖父母などお年寄りの世話</u>
ひとり親と子と祖父母等	母、祖母、祖父、兄・姉、その他	家の掃除、食事の後片付けや食器洗い、ごみ出し
ふたり親と子	父母	食事の後片付けや食器洗い
	父母	カーテンの開け閉め
	父母、兄・姉	家の掃除、食事の支度、 <u>祖父母などお年寄りの世話</u>
	父母、兄・姉	買物
	父母、兄・姉	家の掃除、食事の支度、洗濯
	父母、兄・姉	家の掃除、食事の支度、食事の後片付けや食器洗い、ごみ出し、洗濯
	父母、兄・姉	家の掃除、食事の後片付けや食器洗い
	父母、兄・姉	食事の後片付けや食器洗い、買物
	父母、兄・姉	家の掃除、食事の支度、食事の後片付けや食器洗い
	父母、兄・姉	家の掃除、買物、洗濯
	父母、兄・姉	家の掃除、ごみ出し、洗濯、その他（風呂掃除）
	父母、兄・姉	家の掃除、食事の支度、きょうだいの世話
	父母、兄・姉	家の掃除、食事の支度、食事の後片付けや食器洗い、買物
	父母、兄・姉	家の掃除、食事の支度、食事の後片付けや食器洗い
	父母、兄・姉	食事の支度、買物、その他（風呂掃除）
	父母、兄・姉	家の掃除、食事の支度、食事の後片付けや食器洗い、買物、洗濯
	父母、兄・姉	家の掃除、食事の支度、食事の後片付けや食器洗い、買物
	父母、兄・姉	食事の支度、その他（窓閉め）
	父母、兄・姉、弟・妹	家の掃除、食事の支度、洗濯、きょうだいの世話
	父母、兄・姉、弟・妹	家の掃除、食事の支度、きょうだいの世話
	父母、兄・姉、弟・妹	家の掃除、食事の支度、ごみ出し、きょうだいの世話
	父母、兄・姉、弟・妹	家の掃除、買物、きょうだいの世話、その他（風呂掃除）
	父母、兄・姉、弟・妹	家の掃除、食事の支度、食事の後片付けや食器洗い、ごみ出し、洗濯、きょうだいの世話
	父母、兄・姉、弟・妹	食事の支度、食事の後片付けや食器洗い、きょうだいの世話
	父母、兄・姉、弟・妹	家の掃除、食事の支度、その他（ペットの世話）
	父母、兄・姉、弟・妹	家の掃除、食事の支度、食事の後片付けや食器洗い、ごみ出し、買物、洗濯、きょうだいの世話、その他（犬の散歩、風呂掃除）
	父母、兄・姉、弟・妹	家の掃除、きょうだいの世話
	父母、弟・妹	家の掃除、食事の支度、食事の後片付けや食器洗い、買物、洗濯
	父母、弟・妹	家の掃除、買物、きょうだいの世話
	父母、弟・妹	食事の支度、ごみ出し、きょうだいの世話
	父母、弟・妹	きょうだいの世話、その他（風呂掃除）
	父母、弟・妹	家の掃除、食事の後片付けや食器洗い、ごみ出し、買物
	父母、弟・妹	家の掃除、食事の後片付けや食器洗い、洗濯、きょうだいの世話
	父母、弟・妹	家の掃除、食事の支度、洗濯、きょうだいの世話
	父母、弟・妹	きょうだいの世話、その他（風呂掃除）
	父母、弟・妹	家の掃除、食事の支度、食事の後片付けや食器洗い、ごみ出し、買物、洗濯、きょうだいの世話
	父母、弟・妹	きょうだいの世話
	父母、弟・妹	家の掃除、食事の支度、食事の後片付けや食器洗い、買物、洗濯
	父母、弟・妹	家の掃除、食事の後片付けや食器洗い、洗濯、きょうだいの世話
ふたり親と子と祖父母等	父母、祖母、兄・姉	食事の支度、 <u>祖父母などお年寄りの世話</u>
	父母、祖母、祖父、兄・姉	家の掃除、食事の支度、ごみ出し、買物、洗濯
	父母、祖母、祖父、兄・姉	食事の支度、食事の後片付けや食器洗い、その他（犬の世話）
	父母、祖母、祖父、兄・姉、弟・妹	家の掃除、食事の支度、食事の後片付けや食器洗い、買物、洗濯、きょうだいの世話
	父母、祖母、弟・妹	家の掃除、食事の後片付けや食器洗い、洗濯
	父母、祖母、祖父、弟・妹	家の掃除

- 49人の家の手伝いの内容別の割合は以下のとおりで、「祖父母などお年寄りの世話」が3人となっていますが、同居は1人となっています。

家の掃除：33人（67.3%）、食事の支度：27人（55.1%）、

食事の後片付けや食器洗い：23人（46.9%）、買物：18人（36.7%）

洗濯、きょうだいの世話：各17人（34.7%）、ごみ出し：11人（22.4%）

その他：10人（20.4%）、祖父母などお年寄りの世話：3人（6.1%）

- 中学生24人の家族類型、本人以外の同居家族、家の手伝いの内容は次表のとおりで、ひとり親が2人となっています。

家族類型	本人以外の同居家族等	家の手伝いの内容
ひとり親と子	母、弟・妹	家の掃除、食事の支度、食事の後片付けや食器洗い、買物、洗濯
ひとり親と子と祖父母等	母、祖母、弟・妹	家の掃除、買物、 <u>祖父母などお年寄りの世話</u>
ふたり親と子	父母	食事の支度、ごみ出し
	父母	食事の支度、ごみ出し、洗濯、 <u>祖父母などお年寄りの世話</u>
	父母、兄・姉	食事の後片付けや食器洗い、買物
	父母、兄・姉	家の掃除
	父母、兄・姉	家の掃除、食事の支度、食事の後片付けや食器洗い
	父母、兄・姉	家の掃除、食事の支度、食事の後片付けや食器洗い、洗濯
	父母、兄・姉、弟・妹	家の掃除、食事の支度、食事の後片付けや食器洗い、洗濯、きょうだいの世話
	父母、兄・姉、弟・妹	家の掃除、食事の支度、買物、洗濯、きょうだいの世話
	父母、兄・姉、弟・妹	買物、洗濯、きょうだいの世話
	父母、兄・姉、弟・妹	家の掃除、食事の支度、食事の後片付けや食器洗い、ごみ出し、洗濯
	父母、弟・妹	食事の後片付けや食器洗い、きょうだいの世話
	父母、弟・妹	食事の支度、食事の後片付けや食器洗い、きょうだいの世話
	父母、弟・妹	家の掃除、食事の支度、食事の後片付けや食器洗い、ごみ出し、買物
	父母、弟・妹	家の掃除、食事の後片付けや食器洗い、ごみ出し、買物、洗濯
	父母、弟・妹	家の掃除、食事の支度、食事の後片付けや食器洗い、洗濯、きょうだいの世話
	父母、弟・妹	食事の後片付けや食器洗い、きょうだいの世話
	父母、弟・妹	家の掃除、食事の支度、ごみ出し
	父母、弟・妹	家の掃除、食事の後片付けや食器洗い、洗濯、きょうだいの世話
	父母、弟・妹、その他	家の掃除、食事の支度、食事の後片付けや食器洗い、ごみ出し、買物、洗濯、きょうだいの世話、 <u>祖父母などお年寄りの世話</u>
ふたり親と子と祖父母等	父母、祖母	家の掃除、食事の支度、食事の後片付けや食器洗い、洗濯
	父母、祖父、兄・姉、弟・妹	家の掃除、食事の支度、ごみ出し、買物、洗濯
	父母、祖母、弟・妹	家の掃除、食事の後片付けや食器洗い、きょうだいの世話

- 24人の家の手伝いの内容別の割合は以下のとおりで、「祖父母などお年寄りの世話」が3人となっていますが、同居は1人となっています。

家の掃除：17人（70.8%）、食事の後片付けや食器洗い：16人（66.7%）、  
 食事の支度：15人（62.5%）、洗濯：13人（54.2%）、  
 きょうだいの世話：10人（41.7%）、買物：9人（37.5%）、  
 ごみ出し：8人（33.3%）、祖父母などお年寄りの世話：3人（12.5%）  
 その他：該当無し

## 4 総括的に見て、市の傾向、アンケートから見えることについて

### (1) 子ども・子育て支援ニーズ調査結果に見る特徴と課題

#### ①子どもの人数

- 就学前児童の平均子ども数は2.04人で、前回調査の1.50人から大きく増加。小学生の平均は2.33人で、前回調査の2.25人に比べ若干増加。

#### ②子育てに関する悩み

- 就学前児童保護者は、前回調査と同様に「子どものしつけや教育」がトップで、この回答者は、「子どもの病気や発育・発達」、「子どもの食事や栄養」、「子どもの育児の方法」の回答も多い。小学生保護者も前回調査と同様に「友だちづきあい（いじめ等）」の子どもがトップ。
- 保護者に関する悩みでは、就学前児童保護者は「仕事や自分のしたいことができない」がトップで、「子どもを過度に叱り過ぎているような気がする」と「子どもと接するときに頻繁にイライラすることがある」も上位にあげられる。小学生保護者は「子どもを過度に叱り過ぎているような気がする」が前回調査に比べ減少したものの、保護者に関する悩みのトップ。

⇒核家族化が進む中で、子どものしつけや育児方法など、悩みの軽減・解消につながるような学習機会や相談対応、情報提供、保護者同士や祖父母世代との交流などが必要。  
⇒子どもの思春期対応、学習の遅れ、人間関係など小学生に対する総合的な学習環境づくり。

#### ③悩みや不安についての相談先

- 就学前児童保護者と小学生保護者も「配偶者・パートナー」、「友人や知人」、「祖父母等の親族」の身近な方がトップ3で、「相談相手はいない」が就学前児童保護者で1.3%、小学生保護者が1.4%と低い。
- ⇒専門的な相談対応体制の充実と周知、相談しやすい体制づくり。

#### ④子育てについて得たい情報

- 就学前児童保護者は「子どもの遊び場や施設について」、「子連れで参加できるイベントについて」、「子どもの発育・発達や病気について」が、小学生保護者は「子どもの遊び場や施設について」、「子どもが参加できるイベントについて」、「習い事や学習塾について」が、それぞれトップ3。
- ⇒多岐にわたる情報ニーズに対応するため、民間事業者等と連携し、わかりやすい情報の提供体制や電子媒体の有効活用。  
⇒地域住民や関係団体等との協働によるイベントや交流機会の確保・充実。

## ⑤保護者の就労状況

- 母親の就労率は、就学前児童保護者が67.6%で、前回調査に比べ8.9ポイント増加。小学生保護者が77.9%で、前回調査に比べ6.8ポイント増加。
- 家庭類型では、「フル・フル」が就学前児童保護者は41.1%、「フル・パート」が20.7%で、ともに前回調査に比べ増加。小学生保護者は「フル・フル」が32.3%、「フル・パート」が38.6%で、ともに前回調査に比べ増加。

## ⑥定期的な教育・保育事業の利用状況と利用意向

- 前回調査に比べ「利用していない」が19.5ポイントと大きく減少。一方、「届出保育施設」や「その他」を除く事業では増加し、中でも「保育所（認可保育所・地域型保育施設）」が34.7%で、12.2ポイントと大きく増加。
  - 今後利用したい教育・保育事業では、「保育所」（39.4%）、「幼稚園」（34.1%）、「幼稚園の預かり保育」（18.6%）、「認定こども園」（12.1%）と続く。
  - “0歳児”と“1歳児”、“3歳児”は「保育所」が、“2歳児”と“4歳児”、“5歳児”は「幼稚園」が、それぞれ利用意向が最も高い。また、“3歳児”以上は「幼稚園の預かり保育」が2割を超える。
- ⇒企業等と一体となった育児休業制度の普及や父親の育児休業取得促進。
- ⇒高い母親の就労率に対応した子育てと仕事の両立支援、多様なニーズに対応した教育・保育事業の一層の充実。

## ⑦学童保育所の利用状況と利用意向

- 5歳児の小学校低学年における放課後の過ごし方の意向では、前回調査と同様に「学童保育所で過ごす」が60.2%で最も高く、前回調査に比べ8.6ポイント増加。
  - 小学生の学童保育所の利用状況は、低学年時が31.5%、高学年時が10.0%。
  - 長期休暇中の学童保育所の利用意向は、低学年時が14.9%、高学年時が8.0%。
- ⇒本人のニーズも含め、柔軟な運営、指導員の確保等、多様な側面からの検討。

## ⑧地域との関わり

- 隣近所との日頃のつきあいでは、就学前及び小学生ともに「道で会えばあいさつをする」が最も高い。就学前は無回答が18.6%と高く、また、「ほとんどつきあわない」が11.5%で、小学生の6.0%に比べ5.5ポイント高い。一方、「相談したり助け合ったりする」と「気の合う人と親しくしている」を合わせた『親しくしている』が、就学前は15.5%、小学生は28.7%で、前回調査に比べそれぞれ2.3ポイント、6.3ポイント減少。
  - 小学生で参加したことがある、もしくは今後参加させたい地域活動やグループ活動等で「子ども会等青少年団体活動」が28.7%で、前回調査に比べ15.4ポイントと大きく減少。
- ⇒核家族世帯が増加する中で、特に乳幼児のみの世帯の地域での孤立化防止。

- ⇒子ども会等青少年団体活動のみならず、町内会活動などへの賛同が得にくくなっている状況の中で、地域とも一体となった子育て支援のあり方の再検討。
- ⇒コロナ禍で地域交流が減退してきた中で、その後の改めて地域での多様な交流機会やイベント等の促進。

⑨出産時に家事・育児を手伝ってくれた人

- 「自分だけで対応した」が就学前児童保護者は11.5%、小学生保護者は13.7%。
  - ひとり親の場合、「自分だけで対応した」が就学前児童保護者は25.0%、小学生保護者は20.0%。
- ⇒妊娠・出産、子育てに関する悩み等に対して、母子保健推進員等の母子に係る地域の人的資源や、研修を受けた子育て経験者・シニア世代の者、保健師、助産師、保育士等の専門職等が、不安や悩みを傾聴し、相談支援（寄り添い）を行う産前・産後サポートやシルバー人材センター等と連携した家事支援の促進。

⑩福津市の子育て支援策について

- 福津市に充実を図ってほしい支援では、就学前児童保護者、小学生保護者ともに、「保育所や幼稚園等（小学生は子育て、教育）子育てにかかる費用負担の軽減」がトップで、「子連れでも出かけやすく、楽しめるイベントの機会」、「子どもや親子が安心して集まり、遊べる場」、「子どもの医療・療育体制の整備」、「残業時間の短縮や休暇の取得促進等、企業に対する職場環境の改善の働きかけ」が順位は異なるものの、上位にあげられる。
- 満足度の高い子育て支援策については、就学前児童保護者、小学生保護者ともに無回答がおよそ3割と高く、前回調査に比べ5～7ポイント増加。
- 重要度の高い子育て支援策については、順位は異なるものの、「経済的な支援の拡充」、「子どもにとって安全なまちづくり」、「学童保育の充実」、「子どもの遊び場、遊び体験の充実」、「いじめ、不登校、児童虐待の防止と対応」、「多様な保育、教育機能の充実」の6項目がトップ7に入っていて、異なるのは、就学前児童保護者が「妊娠出産期からの保育環境の整備」、小学生保護者が「子どもが相談できる場の確保」となっている。



## (2) 子どもの生活実態に関する調査にみる特徴と課題

### ①同居家族、養育費

- 子ども向け生活実態調査で、祖父母等との同居も含め『ひとり親』は小学5年生が10.7%、中学2年生が15.2%。保護者向け生活実態調査で、ひとり親世帯に「該当する」は小学5年生が7.6%、中学2年生が13.3%。
- 保護者向け生活実態調査で、「離婚」は小学5年生が5.1%、中学2年生が9.7%。離婚した方で養育費について、取り決めに関わらず『受け取っている』は全体で35.5%、小学5年生が20.0%、中学2年生が45.9%で、小学5年生が低い。一方、『受け取っていない』は全体で61.3%、小学5年生が80.0%、中学2年生が48.6%で、小学5年生が高い。

⇒養育費に関する取り決めについての情報提供や相談等、養育費関連の施策の促進。

### ②子育てに関する悩み

- 全体では、「日常の勉強、進学や受験など子どもの教育に関すること」(49.3%)、「友だち付き合い(いじめ等を含む)に関すること」(32.1%)、「教育費など経済的な不安や負担に関すること」(30.5%)がトップ3。小学5年生と中学2年生ともに「日常の勉強、進学や受験など子どもの教育に関すること」がトップで、特に中学2年生は60.6%で、小学5年生に比べ20.1ポイント高い。

### ③悩みや不安についての相談先

- 全体では、就学前児童保護者及び小学生保護者と同様に、「配偶者・パートナー」、「友人や知人、職場の人」、「祖父母等の親族」の身近な方がトップ3で、「相談先がない」が2.8%。

### ④保護者の就労状況

- 母親の就労率は、小学5年生が83.1%、中学2年生が84.6%で、就学前児童保護者調査や小学生保護者調査に比べ高い。

### ⑤ヤングケアラー

- ヤングケアラーに「あてはまる」が5.6%で、小学5年生は6.8%、中学2年生は4.0%。
  - 本レジュメの4・5頁にあるように、世話の内容は家事が多い。
- ⇒ヤングケアラーの定義の明確化(国)と、支援についての具体的な検討。

### ⑥地域との関わり

- 子ども向け生活実態調査で、地域の居場所の利用状況は、【①自分や友人の家以外で、平日の夜や休日を過ごすことができる場所】(30.3%)、【⑤地域の行事などの活動で過ごす場所】(20.0%)、【③地域の人などが勉強を見てくれる場所、自由に勉強でき

る場所】(12.3%)、【②自分や友人の家以外で、夕ごはんを無料か安く食べることができる場所】(7.1%)、【④家や学校以外で、何でも相談できる場所】(3.6%)の順。

- 「あれば利用したい」は、【②自分や友人の家以外で、夕ごはんを無料か安く食べることができる場所】(18.5%)、【③地域の人などが勉強を見てくれる場所、自由に勉強できる場所】(17.5%)、【⑤地域の行事などの活動で過ごす場所】(15.2%)、【④家や学校以外で、何でも相談できる場所】(10.5%)、【①自分や友人の家以外で、平日の夜や休日を過ごすことができる場所】(7.6%)の順。
- 地域の居場所5項目のうち、1項目でも利用したことがあると回答した子どもは46.3%で、利用したことによる変化について、「友だちが増えた」(46.5%)、「生活の中で楽しみなことが増えた」(35.3%)、「ほっとできる時間が増えた」(27.9%)、「気軽に話せる大人が増えた」(25.3%)、「勉強する時間が増えた」(24.6%)と続く。

⇒身近な地域で、子ども食堂に限らず、様々な機能を持つ居場所や体験交流ができる場や機会の充実。子どもが選択しやすい情報の提供。

- 保護者向け生活実態調査で、近所づきあいの状況では、小学5年生及び中学2年生ともに「たまに立ち話やあいさつをする程度の人がいる」が最も高く、小学5年生は52.2%、中学2年生は45.2%。一方、「ほとんど近所付き合いはない」が小学5年生は11.3%、中学2年生は16.7%で、小学5年生は小学生保護者調査の6.0%に比べ高い。

⇒母親の就労率が小学生高学年や中学生で高い中で、近所付き合いはないが高くなる傾向があり、コロナの影響による地域での交流が減少した影響も考えられるが、共働きやひとり親家庭の地域での交流の促進。

## ⑦子どもの学習

- 学校の授業について、「教科によってはわからないことがある」と「わからないことが多い」、「ほとんどわからない」を合わせた『わからない』が全体で41.3%。小学5年生は31.1%、中学2年生は53.3%で、中学2年生は半数を超える。
- 学校の授業でわからないようになった時期について、小学5年生は「小学3・4年生のころ」が53.2%で最も高く、中学2年生は「中学1年生のころ」が56.1%で最も高く、『小学生のころ』が合わせて29.5%。
- 子ども向け生活実態調査で、学校や周りの大人に助けてほしいことについて、全体では、「特になし」が58.7%で最も高く、「わからない」、「答えたくない」及び無回答を除くと、27.1%が具体的な助けてほしいことを回答。その中では、「勉強を教えてほしい」(14.5%)がトップで、小学5年生は11.2%、中学2年生は18.4%。

⇒授業に関するつまずきの時期は、小学生なら3、4年生、中学生なら1年生で、中学生は小学生のころも3割程度あり、子ども自身も保護者も「勉強」が悩みのトップとなっていることから、小学生のころから学校、地域等と連携した勉強に関するきめ細かな相談・対応体制づくりが急務。

#### ⑧生活困難世帯の状況（子ども向け調査から）

- 週当たりの食事について、「週5～6日」、「週3～4日」、「週1～2日、ほとんど食べない」を合わせた『毎日食べない』が、【①朝食】と【②夕食】、【③長期休暇期間中の昼食】ともに生活困難世帯が高く、特に【①朝食】が顕著。
- 塾や習いごとをしているかどうかについて、「はい」が生活困難世帯は他の世帯に比べ低い。
- 学校の授業で『わからない』が生活困難世帯は49.3%で、他の世帯に比べ高い。
- 学校を「よく欠席する」が生活困難世帯は7.0%で、他の世帯に比べ高い。また、遅刻や早退を「よくする」が生活困難世帯は5.6%で、他の世帯に比べ高い。
- 本人の思いや気持ちについて、生活困難世帯は【③私は、よく頭やお腹が痛くなったり、気持ちが悪くなったりする】と【⑤私は、大抵一人でいる。大体いつも一人遊ぶか、人と付き合うことを避ける】、【⑥私は、心配ごとが多く、いつも不安だ】の3項目が他の世帯に比べ高く、一方、【⑫私は、年下の子どもたちに対して優しくしている】と【⑬私は、親からほめられることが多い】の2項目が他の世帯に比べ低い。
- 今の生活に『満足している』が生活困難世帯は78.9%で、他の世帯に比べ低い。一方、『満足していない』が4.2%で、他の世帯と大差なし。

#### ⑨生活困難世帯の状況（保護者向け調査から）

- 家族類型では、生活困難世帯は「ひとり親と子」と「ひとり親と子と祖父母等」を合わせた『ひとり親』が26.7%で、それ以外の世帯（3.6%）や不明（14.9%）に比べ高い。
- 子どもとの関わり方について加重平均でみると、生活困難世帯は【(1) お子さんとよく会話をしている】と【(8) 普段、お子さんと一緒に夕食を食べている】以外が他の世帯に比べ低く、特に【(4) お子さんに本や新聞を読むように勧めている】が低い。また、これ以外で最も高い世帯と0.3以上低い項目は【(9) 毎月、お子さんに適当なお小遣いを与えている】と【(5) お子さんが幼いころ、絵本の読み聞かせをしていた】の2項目となっている。
- 生活困難世帯は塾や習いごとに「通っている」が52.1%、「通っていない」が46.5%で、「通っていない」が他の世帯に比べ20ポイント以上低い。
- 生活困難世帯は近所の人との関係で、「ほとんど近所付き合いはない」や町内会など地域の行事や活動に『参加していない』が、他の世帯に比べ高い。
- 子どものことでの悩みや気になることについて、生活困難世帯は剥奪指標になった「子どもに十分な食事や衣服を与えることができていない」と「習いごとやほしい物など、子どもが望む環境を与えることができていない」以外でも他の世帯に比べ高い項目が多い。特に「教育費など経済的な不安や負担に関すること」（69.0%）が悩みのトップで、他の世帯に比べ40～50ポイント以上高い。
- 孤立を『感じている』が生活困難世帯は37.3%で、他の世帯に比べ20ポイント以上高い。
- 現在の生活に『満足している』が生活困難世帯は31.7%で、他の世帯に比べ30～40

ポイント低い。

- 現在必要としている、または支援を受けて良かったことについて、生活困難世帯は他の世帯に比べ高い項目が多い。特に「子どもの就学にかかる費用が軽減されること」が61.3%と高く、「給食費の負担が軽減されること」も39.4%と高い。
- 子どもの貧困を解決するために必要な支援については、どの世帯も「進学などのための奨学金制度の充実」が最も高く、生活困難世帯とそれ以外の世帯が同程度。生活困難世帯は「保護者等への経済的な支援」（57.0%）と「学校以外での学習の支援」（45.8%）が、他の世帯に比べ高い。

### (3) 子ども・若者育成支援に関する調査にみる特徴と課題

#### ①本人のこと

- 性別では、「男」が31.1%、「女」が67.1%。
- 年齢は、「30～34歳」(33.9%)が最も多く、「25～29歳」(25.0%)、「15～19歳」(21.1%)、「20～24歳」(19.5%)。

#### ②自分の気持ちについて

- 国の調査に比べて「あてはまる」が低い項目は、【(2)今、自分は幸せだと感じる】と【(5)自分の将来に明るい希望を持っている】、【(7)社会のために役立つことをしたい】で、いずれも男が低い。

#### ③地域との関わり

- 近所の人との付き合いの程度は、『親しく付き合っている人がいる』が19.2%、一方、「ほとんど付き合いがない」が37.9%。『親しく付き合っている人がいる』は、15～19歳(26.3%)と20～24歳(25.7%)が他の年齢区分に比べて高く、「ほとんど付き合いがない」は25～29歳(50.5%)と30～34歳(40.3%)が高い。
- 地域での助け合いに対する関心度について、『関心がある』が73.7%、一方、『関心がない』が26.3%。『関心がある』は、女(75.7%)が男(70.3%)に比べ5.4ポイント高く、一方、『関心がない』は、男(29.7%)が女(24.3%)に比べ5.4ポイント高い。

⇒近所の人との付き合いの程度に比べ、地域での助け合いに対する関心度が高く、その関心度を行動にまで引き出していくような仕組みづくりや企画の推進。

#### ④居場所について

- 自分にとっての居場所であてはまる率は、【(1)自分の部屋】、【(2)家庭】、【(5)地域】、【(6)インターネット空間】、【(3)学校・職場】、【(4)友人宅】の順で、国の同年代の調査と比べて、選択肢は異なるものの、どの居場所も本調査の『あてはまる』が高い。
- 居場所の数についてみると、居場所が全くない「0か所」が1.1%、「1か所」が3.4%で、『2か所以下』は合わせて10.8%。
- 居場所の数と自分の気持ちとの関係を見ると、概ね居場所の数が“6か所”全てでは自己肯定感等を持つ率が高い傾向がある。一方、『2か所以下』では【(9)孤独であると感じることがある】が『あてはまる』が50%以上と高い。
- 地域にあったらよいと思う居場所は、「安心して体を動かす遊びができる場所」(54.7%)、「自分ひとりで時間を過ごせる場所」(47.4%)、「Wi-Fiやパソコンが自由に使える場所」(46.1%)、「友だちや親しい人と落ち着いて話せる場所」(44.5%)が上位。

⇒若者との協働による居場所づくりや居場所の中間支援を行う機関の役割の明確化、各活動団体との連携など、居場所の選択肢の拡大と周知の促進。

## ⑤引きこもり

- 普段の外出状況から、「普段は家にいるが、自分の趣味に関する用事するときだけ外出する」から「自室からほとんど出ない」までを合わせたひきこもり傾向の人は合わせて11.0%。
  - 性別では、ひきこもり傾向の率は、男が4.1%、女が13.8%で、女が高い。年齢別では25～29歳が19.0%で最も高く、30～34歳が12.4%、20～24歳が6.9%、15～19歳が3.8%で最も低い。
  - ひきこもり状態になった主な理由は、「妊娠したこと」(33.3%)、「人間関係がうまくいかなかったこと」(31.0%)、「その他」(26.2%)、「退職したこと」(19.0%)、「学校になじめなかったこと」(16.7%)と続く。
  - 性別では、男は「学校になじめなかったこと」と「人間関係がうまくいかなかったこと」が、女は「妊娠したこと」が、それぞれ最も高い。
- ⇒地域におけるひきこもりに関する理解を深め、ひきこもり当事者やその家族が孤立せず、相談しやすい環境づくりを促進。
- ⇒妊婦が、地域で孤立せずに安心して生活できるよう、関係機関や地域と連携した多様な支援や相談体制の充実。きめ細かな産前・産後ケアの促進。

## ⑥生活の悩みの相談先

- 生活を円滑に送ることができない状態になったときの家族や知り合い以外の相談先の希望について、「同じ悩みを持っている、持っていたことがある人」(41.6%)、「同世代の人」(28.2%)、「匿名で相談できる窓口・サービス」(27.1%)、「無料で相談できる窓口・サービス」(22.6%)、「カウンセラーなど心理学の専門家」(21.6%)と続く。また、「誰にも相談したくない」が10.3%。
- 「誰にも相談したくない」と思う理由については、「相談しても解決できないと思うから」(53.8%)、「相手がどのような人かわからないから」(23.1%)、「自分ひとりで解決するべきだと思うから」(17.9%)と続く。

## ⑦ヤングケアラーについて

- 子ども以外で家族の中に世話をしている人が「いる」は3.9%で、「母親」が1.6%、「きょうだい」が1.3%、「祖母」と「祖父」がともに1.1%、「父親」が0.8%、「その他」が0.5%。
- 「世話を必要としている人がいる」は15件で、理由は「高齢」と「その他」がともに46.7%で最も高い。
- 世話の内容は、「家事」と「見守り」(ともに33.3%)、「外出の付き添い」(26.7%)、「病院の付き添い」と「感情面のサポート」(ともに20.0%)と続く。
- 世話をしているために、やりたいけどできないことは、「自分の時間がとれない」(53.3%)、「好きなことにお金を使えない」(33.3%)など。

#### ⑧行政に取り組んでほしい子ども・若者への支援

- 「生活が苦しい子ども・若者やその家庭を支援する」(55.5%)、「子ども・若者が気軽に立ち寄れる居場所を充実する」(44.2%)、「子ども・若者の意見を聴き、施策に反映する機会を増やす」(36.6%)、「子ども・若者が悩みごとを相談できる窓口を充実する」(35.5%)、「学校に行けない人の人生にプラスになる地域の居場所を作る」(31.6%)と続く。

#### ⑨「こどもまんなか社会」を目指すことについて

- 「「こどもまんなか社会」の趣旨に賛同するが、あまり期待できないと思う」が62.4%、「「こどもまんなか社会」の趣旨に賛同するし、期待できる」が35.5%で、『趣旨に賛同する』は合わせて97.9%。一方、「「こどもまんなか社会」の趣旨には賛同できない」が1.1%。

#### ⑩福津市のこども・若者の育成環境に関する認識

- 「「そう思う」と「どちらかというと思う」を合わせた『そう思う』が50%を超えるのは、【(1)福津市は、家庭や子育てに夢を持ち、喜びを感じられる地域である】(50.5%)。一方、【(3)福津市では、大人たちがこどもの意見・考えを考慮して物事を進める環境がある】は『そう思わない』(41.9%)が高い。